

(7) 学校評価
令和6年度

学校自己評価表(報告)

学 校 運 営 計 画							
学 校 運 営 方 針	(1)「新潟県農業教育発祥の地」として培われてきた伝統と校風を継承し、地域農業を担う人材育成の拠点校として、持続可能な魅力ある農業教育を推進する。 (2)校訓「思索正知」、「礼譲信義」、「自主自律」のもと、高農生のうりである「時を守り、場を清め、礼を正す」姿勢を浸透させ、豊かな教養、人間性、進取の気性を身につけた勤労を貴ぶ人間を育成する。 (3)社会人となる基盤を培う学校として地域や保護者と連携した組織的な教育を実践し、その教育活動を積極的に発信し、地域・生徒・保護者から信頼され、選ばれ続ける学校を目指す。						
三つの方針(スクール・ポリシー)							
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する能力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探求し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。						
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組み地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。						
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①明確な目標を持ち、その実現のために意欲的に取り組むことのできる生徒。 ②農業の学習において興味・関心を持ち、努力を惜しまない生徒。 ③農業に関する専門的な知識や技術の習得に積極的に取り組み、地域貢献できる生徒。 ④他者を思いやり、協力しながら課題解決に向け主体的に取り組むことのできる生徒。 ⑤部活動や学校行事など、学校生活に向上心を持って積極的に取り組む生徒。						
昨 年 度 の 成 果 と 課 題	年度の重点目標		具体的目標				
	学習意欲を高める。		主体的・対話的で深い学びの実現に向け創意工夫して授業改善を行い、特色ある教育活動を展開する。				
	責任ある生活態度を育成する。		基本的な生活習慣の確立及びいじめを含む問題行動の未然防止に努める。				
	適切な進路選択ができるよう自分の適性を見きわめる力、適応する力を伸ばす。		職業人として必要な基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。 進路情報の収集・提供を適切に行い、早期からの進学指導を充実させる。				
重 点 目 標	具体的目標		具体的方策			評価	
学科・コースの教育目標のもと、各分野の知識・技術を習得し、地域の発展を図る実践的な能力と態度を育成する。	(生物資源科) 栽培や飼育の実験・実習を通じて、自らが考えて実践する力を育成する。また、協調性や協働の精神と共にコミュニケーション能力を身につけることにより、社会に貢献できる人材を育成する。		授業・実習、課題研究の取り組み、各種研修への参加など、地域や農業関係機関と連携した学習活動を行う。その体験から地域農業の魅力と課題を探り、自発的に学ぼうとする能力を身に付けさせる。			A	A
			地域の教育力を柔軟に取り入れ、連携することにより、地域農業の課題に対してSDGsの達成に向けた解決策を見出す能力を身に付けさせる。また、様々な立場や年齢の人とふれ合うことでコミュニケーション能力を高める。			A	
			授業や実習を通じて、専門分野への興味や関心を喚起する。農業学習の成果を発揮し、農業クラブ各種大会で優秀な成績を取める。また、資格取得やFFJ検定認定の実績を積み重ねてアグリマイスター認定を目指す。			B	
	(食品科学科) 実験・実習において安全・衛生管理に関する態度を育成する。また、地域や企業との連携を図り、食品関連産業に貢献する人材を育成する。		課題研究などの専門科目を通して、地域や学校外部の企業との連携を深め、生徒に外部との関わりを体験させ、進路意識啓発や職業意識の向上を図る。			B	B
			プロジェクト発表県大会に向けて課題研究等の指導を強化するとともに、外部から評価を得られる新製品・新技術の開発・製品化を図る。			B	
			資格(バイオ技術者検定、食品衛生責任者)取得のため適切な指導を行い、合格者数の向上・全員の資格取得を目指す。			A	
	(農業土木科) 実験・実習において地域や企業と連携して、地域の教育力を活かした教育を実践する。また、資格取得の取り組みを通し専門性を高め、生徒の関連産業への就労や関連大学への進学を目指す。		資格取得(測量士補、2級土木施工管理技術検定)を指導し、合格者数の増加を図る。			B	A
			建設業協会をはじめとした関係機関と連携して建設現場の見学や実習を実施し、建設関連産業への関心を向けさせる。			A	
			関係機関と連携を図りながら土木関連企業への就職希望者の支援をする。また、公務員希望者の合格に向けて指導を強化し、合格者の増加を目指す。			A	
ホームルームやクラブ活動等の集団生活を通して、自主的・実践的な態度を育て、生徒の希望進路を達成する。	(1学年) 基本的生活習慣を確立し、希望コースが選択できるようサポートする。		日々の教育活動を通じて規律ある学校生活を送ることで、基本的な生活習慣の定着を図る。			B	B
			挨拶を励行し、清掃活動を積極的に行うよう指導する。			B	
			個人、保護者を含めた三者面談を通し連携を密にし、適切なコース選択を支援する。			A	
	(2学年) 進路意識を高め、明確な目的意識をもち、主体的に学校生活を送れるように指導・支援する。		基本的生活習慣を確実に身に付けさせ、場面に応じた望ましい行動ができるよう指導する。			B	B
			希望進路実現のために基礎学力の定着が大切であることを理解させ、目的をもった主体的な学習が図れるよう指導・支援する。			B	
			自己理解と自己実現・社会貢献とを結びつけ、卒業後の姿を考えさせることにより、具体的な目的・目標を定められるよう進路啓発に努める。			B	
	(3学年) 日々の学校生活に対して目的を持って真剣に取り組む希望進路を実現できるように、指導・支援する。最上級学年に求められる役割や振る舞いを自覚し、各自が自己理解と社会理解をもとに、自律的に行動できるように指導・支援する。		「大学・短大・大学校・看護進学」「専門学校進学」「就職」「公務員」の4群に分けて、それぞれに対応したガイダンスや講演会などの実施、あわせて保護者との綿密な連携を図り、生徒の進路実現を目指す。			A	A
			最高学年の自覚のもと、学校行事や部活動において生徒集団でリーダーシップを発揮し、望ましい社会集団形成ができるよう指導・支援する。			B	
			社会人としての心構えや成人年齢引き下げに伴う責任とリスクの講演会などを実施して、卒業後も社会に貢献できるように指導する。			A	
学校の教育目標を達成するため、各分掌が連携して生徒の指導にあたり、自己実現させる。	(教務) 授業時数を確保し、基礎学力の向上を図り主体的に学ぶ態度を育成する。 ICT機器等の活用により「わかる授業」ができるよう支援し、学びを深めるようにする。 学校行事を円滑に実施すると同時に教育相談を充実させる。		今年度は曜日のバランスも考慮しながら授業時数を確保する。 ICT機器等により問題解決・探求のための情報と情報技術の活用とさらに教員間での情報共有をする。			B	B
			教育相談を年2回実施して、生徒理解を深めるとともに授業改善にもつなげていく。			A	
	(生徒指導) 「身なりを整え・思いやりの心を持ち・いじめのない高農生」をスローガンとして、学年・クラス経営、各分掌経営と有機的な関連を職員間で図りながら、生徒の自立性・社会性を育てる。		生徒の規律正しい生活習慣を確立し、規範意識を育む。			A	A
			毅然とした態度で、機動的な生徒指導体制を推進し、教職員が一丸となって生徒・保護者に寄り添い粘り強く生徒指導にあたる。			B	
			家庭・地域・関連機関と連携して「いじめ」のない安全・安心な学習環境をつくる。			A	
	(進路指導) 生徒一人一人に自己理解と自己実現のあり方を指導するとともに個々の生徒の適性を把握・共有化し、学年・クラス指導と個別指導を組み合わせた指導を行い、希望進路の実現を図る。		就職希望者に対して、職業人として必要な基礎知識やマナーを身に付けさせる。 就職試験に向けて、面接・作文・学習指導をきめ細かに行う。 進学希望者に対して適切な情報提供を行い、面接・小論文・教科指導(進学対策講習)の充実を図るとともに、国公立大学等への進学を実現するため大学見学や関連セミナー参加など、入学当初から進学意識を高めるための行事等を計画・実施する。 保護者に対して各学年・担任・PTAと連携し、進路情報の提供及び進路相談を積極的に行う。			B	B
						B	
						A	
	(生徒活動) 生徒が学校という社会の構成員であることを自覚し、よりよい学校を築く責任感を持ちながら、自主的に生徒会・農業クラブ活動を運営する。さらに全校生徒が一体となり、高校生活を充実させる。		生徒が生徒会活動・学校行事・農業クラブ活動に積極的に関わり、生徒の自主性を引き出し、充実した学校生活を実現させる。			B	B
			クラブ活動の活動実態を把握し、生徒が積極的に参加できるよう、各部の活動の見直しを行う。			B	
			生徒会役員や農業クラブ役員が協力して行事の計画・運営に努め、学校を盛り上げる。農業クラブ活動に積極的に取り組み、活動・活躍の場を広げる。			A	
	(教育環境) 自己の健康に関心をもち、自律的に心身の健康管理ができるよう指導・支援する。 安全で快適な生活環境への関心を高め、改善できるよう支援する。		心身の健康管理が自主的にできるような健康教育(講演会・便り等による啓発)を行う。また、災害等の非常事態に際して、生徒の安全確保のため防災訓練を2回行う。 学校内の環境整備のために、清掃活動を徹底し、清掃状況を確認する。また、外清掃を行い、学校周辺の環境美化を意識させる。 PTA活動を工夫することで出席率を向上させ、学校への関心を高める。また、図書館の整備や情報発信等に努め、読書習慣の形成を促す。			A	A
						B	
						A	
			A				
成 果	授業・実習、課題研究の取り組み、各種研修への参加など、地域や農業関係機関と連携した学習活動を行ったことで、地域農業の魅力と課題を探り、自発的に学ぼうとする能力を身に付けた。 学校行事では生徒会、農業クラブの生徒たちは目標である「自覚と責任」を持ち自主的に運営することができた。体育祭、高農祭では多くの来校者を迎え、日頃の練習や学習の成果を見ていただけたことが出来た。 進路指導については、保護者との連絡を密にし、進路指導部と連携しながら進学・就職・公務員など生徒の希望に沿った進路実現を図ることができた。					総合評価	
B							